

【田原市博物館 テーマ展】

書の美術

令和5年4月15日(土)～6月4日(日)

展示室 特別展示室

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
◎	わたなべかざん 渡辺華山	とかいねがいしよおよ すけごうしよるい 渡海願書及び助郷書類	天保8(1837)年 天保9(1838)年	紙本墨書	卷子	展示期間 4月15日～5月14日まで
	渡辺華山	きよくていばきんあてしよじょう 曲亭馬琴宛書状	文政12(1829)年	紙本墨書	額	展示期間 5月16日～6月4日まで
	渡辺華山	とうめいびようぶ 東銘屏風	江戸時代後期	紙本墨書	屏風	
	渡辺華山	せいめいびようぶ 西銘屏風	天保9(1838)年	紙本墨書	屏風	
	渡辺華山	ごぜつ 五絶	江戸時代後期	紙本墨書	掛幅	高林コレクション
	渡辺華山	ちゅうしゅうほげつごこんりつし 中秋歩月五言律詩	文政2(1819)年	紙本墨書	掛幅	
	渡辺華山	たはらおさんにんさまあてしよかん 田原御三人様宛書簡	天保9(1838)年	紙本墨書	卷子	
	渡辺華山	はいがきつ 俳画冊	天保年間	紙本墨面淡彩	画帖	
	きとういつさい 佐藤一斎	しちごんぜつく じだいしやうしやう 七言絶句「自題小照」	江戸時代後期	紙本墨書	掛幅	
	いちかわべいあん 市河米庵	しぎやうしよ 四行書	江戸時代後期	紙本墨書	掛幅	
	わたなべしやうか 渡辺小華	ヒポクラテス像	安政6(1859)年	絹本着色	掛幅	三宅友信賛 高林コレクション
	渡辺小華	かきんじゆうにじよう 花禽十二帖	明治時代	絹本着色	画帖	
	たかもりきいがん 高森碎巖	さんすいずおよ ししよ 山水図及び詩書	明治時代	紙本墨画	掛幅	
	たちはらきやうしよ 立原杏所	れいしよしちぜつ 隸書七絶	江戸時代後期	紙本墨書	扇面	
	えがわたんあん 江川坦庵	ごりつせんめん 五律扇面	江戸時代後期	紙本墨書	扇面	
	いとうほうざん 伊藤鳳山	ていしやう 禎祥	江戸時代後期	紙本墨書	掛幅	個人蔵
	たかしましゅうはん 高島秋帆	へいがくしよ 兵学書	安政元(1854)年	紙本墨書	掛幅	個人蔵
	すずきすいけん 鈴木翠軒	まんやうしゅう かん ばん おみのおおきみ 万葉集 卷1-24番 麻統王	昭和36(1961)年	紙本墨書	掛幅	
	すずきすいけん 鈴木翠軒	まんやうしゅう かん ばん かきのもとひとまる 万葉集 卷3-250番 柿本人麻呂	昭和33(1958)年	紙本墨書	掛幅	
	すずきすいけん 鈴木翠軒	まんやうしゅう かん ばん かきのもとひとまる 万葉集 卷3-253番 柿本人麻呂	昭和33(1958)年	紙本墨書	掛幅	

◎重要文化財 表記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

< 作者紹介 >

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びました。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を学びます。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会の出品や明治宮殿の杉戸絵など制作しました。

市河米庵 安永8(1779)年～安政5(1858)年

漢詩人である市河寛斎の長男として江戸に生まれました。父や林述斎に師事し、書は中国・清の胡兆新に学びました。その後、米芾や顔真卿の書に傾倒した。晩年になると大名や町人、僧侶など5000人もの門人を抱えたと言われています。巻菱湖、貫名海屋とともに幕末の三筆に数えられます。

佐藤一斎 明和9(1772)年～安政6(1859)年

岩村藩佐藤信由の次男として江戸に生まれました。寛政3(1791)年、20歳の時に大坂で儒学者の中井竹山に学び、5年に林錦峯に入門しました。文化2(1805)年に林家塾の塾長となり、多数の門人を抱えました。門人は3000人と言われ、著名な弟子に渡辺華山や山田方谷、大橋訥菴らがいます。

立原杏所 天明5(1785)年～天保11(1840)年

水戸藩の儒学者立原翠軒の子として、水戸に生まれました。19歳で家督を継ぎ、有能な藩士として徳川斉昭の信任が篤かったです。絵を林十江や谷文晁に学び、花鳥画や山水画に優れる一方で、重要文化財「葡萄図」のように大胆で奔放な筆致の

作品も描きました。

江川坦庵 享和元年(1801)～安政2年(1855)

通称の太郎左衛門でよく知られています。江川家は鎌倉時代より続く名家で、江戸時代には伊豆国韭山の代官を代々務めました。坦庵は高島秋帆に就いて砲術を学びました。ペリー来航後は、品川台場建設、反射炉築造、大砲鑄造などを行いました。書は市河米庵、絵は椿椿山に学びました。

伊藤鳳山 文化3年(1806)～明治3年(1870)

庄内藩酒田(現在の山形県酒田市)の町医師の家に生まれました。渡辺華山の推挙により、田原藩の藩校成章館の教授を務めました。華山の影響を受けた鳳山は、ペリーの来航時、開国を主張しました。

高島秋帆 寛政10(1798)年～慶応2(1866)年

長崎町年寄の高島四郎兵衛茂紀の三男として長崎に生まれました。はじめ萩野流砲術を学び、出島のオランダ人から西洋砲術を学んで高島流砲術と名付けました。天保12(1841)年、幕命により徳丸ヶ原(現在の東京都板橋区高島平)で西洋式の調練を披露しました。弟子に江川坦庵らがいます。

高森碎巖 弘化4(1847)年～大正6(1917)年

上総国(現在の千葉県)出身です。儒学を服部蘭台に、書を萩原秋巖に学びました。17歳で渡辺華山の高弟である山本葉谷に絵を学びました。明治維新後、司法省学校で法律を学び、熊本裁判所に赴任しました。職を辞した後、絵画活動も、公的な展覧会には出品しませんでした。

鈴木翠軒 明治22(1889)年～昭和51(1976)年

渥美郡堀切村(現在の田原市堀切町)に生まれました。1932年、『国定甲種小学書方手本』の揮毫者となり、全国に翠軒の名が広まりました。伊良湖岬にある「万葉の歌碑」は、翠軒の揮毫により麻統王の歌が刻まれています。また、恋路ヶ浜には「桃源」の書碑も建立されています。